



狭心症、心筋梗塞について ③

日本における死因の第一位はがん、第二位に心疾患が15.0%と続きます。心疾患の内、約40%が心不全であり約30%が心筋梗塞や狭心症となります。心筋梗塞や狭心症を合わせて虚血性心疾患といいますが、誰もがなりうる生命を脅かす怖い病気です。今回は虚血性心疾患について、総合大雄会病院循環器内科の谷信彦医師が解説します。

第三回 虚血性心疾患の治療について

●虚血性心疾患はどのように治療するのですか？

狭心症や心筋梗塞の治療は薬物療法、心臓カテーテル治療、冠動脈バイパス手術を組み合わせて行います。薬物療法は薬剤で冠動脈(心臓の血管)を拡張させて血流を増やしたり、心臓の負担を減らしたりすることで、狭心症発作の予防や心筋梗塞の範囲を軽減させます。しかし、薬物療法だけで症状が改善しない場合や、冠動脈の狭窄(狭いこと)が非常に強い場合、冠動脈が完全に詰まっている場合は心臓カテーテル治療や冠動脈バイパス手術が選択されます。どちらを選択するかは狭窄部位や病変性状、患者さんの状態により決定します。

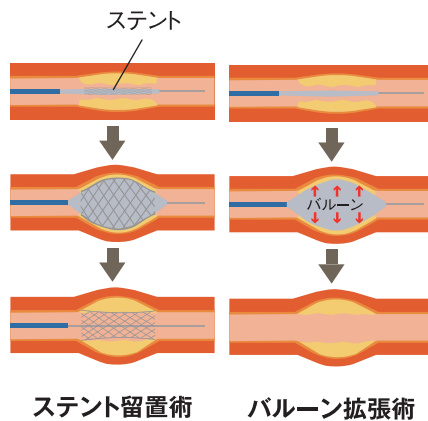
●心臓カテーテル治療とは？

心臓カテーテル治療は、私の専門分野となります。カテーテル治療は心臓カテー

テル検査と同様の方法で行うことができ、身体への負担が少ないことが特徴です。ガイドワイヤーという細い針金を冠動脈に通した後、医療用の風船で狭窄部位を拡張し、金属製の編み目状の筒(ステント)を留置します。ステントは主にコバルト

やクロムの合金であり、一度留置したステントは取り替えることはありません。入れた直後は金属が剥き出しの状態ですが、徐々に血管の細胞に覆われていきます。手首や足の付け根のみの麻酔のため、治療中は会話をすることが可能です。患者さんの状態によって変更はありますが、狭心症であれば多くは1泊2日で治療が可能です。

心臓カテーテル治療は上記以外にも多くの機材を用いて行われており、医師だけでなく看護師、診療放射線技師、臨床工学技士、臨床検査技師など多くの職種が連携し治療にあたっています。



今回は、虚血性心疾患の治療について解説しました。次回は、虚血性心疾患の予防について解説します。ご期待ください。

監修

循環器内科診療副部長 兼
救命救急センター内科部門
診療部長

谷 信彦
医師



〈主な資格〉

- ・日本内科学会 総合内科専門医
- ・日本循環器学会 循環器専門医



未経験
のかたも
歓迎

看護補助者ほか
各職種の非常勤スタッフ **募集中!!**
詳細は「大雄会 採用」で検索ください
☎ 0586-24-8891 (受付時間) 平日8:30~17:30